

平成 26 年度 学校経営計画及び学校評価

1 めざす学校像

■ 美術教育を通じ、美術造形に対する憧憬を生涯の目標として、人生を拓く力、品性溢れる人格を育む

- 1 創造的活動の源泉となる基礎学力と言語表現力を育み、生涯にわたって美術を愛し、生活の場において美意識を大切にす生徒を育成する。
- 2 自分にあった進路が発見できる環境を整えて進路実現につなげるとともに、社会人としての責任感や品性を育成する。
- 3 美術造形教育のセンター校として、美術造形教育の充実・振興に貢献し、文化都市大阪の実現に寄与する。

2 中期的目標

1 創造的活動の源泉となる基礎学力と言語表現力の養成

- ・ 生徒に自己の学力プロフィールを客観的に理解させ、実技教科と同じように普通教科に対する関心・意欲を高め、学習に取り組ませる。
 - ・ 平成24年度から実施している学びの大切さの気づきをめざした宿泊研修は、行事全体がよりよいものとなるよう改善を図ったので、成果の検証を行う。
 - ・ 生徒の学力が多様であることを踏まえ、個に応じた学力の養成を行うために普通科各教科で少人数授業の実施を検討し、ICT 機器の利用を一層推進する。
 - ・ 学習意欲を喚起するために学力テストを活用し、基礎学力の確実な定着をめざす。
 - ・ 国公立大学進学希望者をはじめとするセンター入試受験者には、実技と学習にバランスよく取り組めるよう、補習・講習の時間について整理と管理を行う。
 - ・ 読書活動の充実に加え調べ学習を効果的に採り入れ、創造的活動の基礎・基本となる幅広い学力の養成に努める。
 - ・ 日本の伝統文化や伝統工芸とともに世界の文化遺産を自らの眼で見る機会をつくり、それらの学びや体感をとおして幅広い教養を身につけさせる。
 - ・ 造形科の合評とともに普通教科においてもプレゼンテーションや相互批評を行うなど、常に工夫と研究を重ねてコミュニケーション能力の育成を図る。また、卒業制作プレゼンテーションなど、コミュニケーション力を試す機会も積極的に設けていく。
- ※ 生徒による授業アンケートにおいて普通教科の「授業内容に、興味・関心をもつことができたか」について、肯定的回答平成26年度80%を目標とする。
- ※ プレゼンテーション能力とコミュニケーション能力の育成について、平成26年度を目標に卒業時にすべての領域の生徒が言語に加えボードや映像を活用してプレゼンテーションを行えるようにし、造形表現力とともに言語表現力の育成を図る。

2 将来展望がもてる進路指導の実現

- ・ 生涯にわたる美術造形とのかかわり方、大きな将来展望を考えさせるとともに、将来の職業につなげていく志や力を育てるため、内外で活躍する卒業生の講演、企業や芸術団体と連携した取組み、高一大・専連携講座等の一層の充実を図る。
 - ・ 早期にガイダンスを実施し、具体的な目標の実現に至る道筋を示すとともに、個に応じたきめ細かな進路指導を組織的に行うことにより、よりよい進路の実現を図る。
 - ・ 国公立大学(美術系等)や難関私立大進学を実現につなげる進路指導体制を整備する。
 - ・ 自己の進路実現につなげる進路指導の指標として、卒業時のアンケートで希望する進路が実現できているかを検証する。
 - ・ 卒業生の大学入学後の状況を調査し、社会とのつながり、接続等を研究し、進路指導等に活用する方策を検討する。
 - ・ 創造的活動に意欲的に取り組ませるとともに社会人としての基礎力を養成するため、部活動への積極的な加入をすすめる。
- ※ 美術系大学等への進学者の入学後の状況を調査・研究し、大学等への進学後に退学することのない進路指導(手法・内容)を平成26年度までに実現する。
- ※ 改善を重ねてきた部活動加入者数(延べ700名)や高校展への出品者数(延べ300名)が減少しないよう取組みを継続し、現在の水準を維持する。

3 美術造形教育センター校としての役割

- ・ 大阪の美術教育の振興に貢献するため本校の教育資源(施設設備、教員、大学・美術工芸団体等との連携関係)を有効に活用し、校種をこえて小・中学校の教員向けの実技研修会を充実させる。
 - ・ 学校外での生徒作品の展示、報道媒体への情報提供、HPの充実等による積極的な広報活動を展開し、大阪における本校の存在感を高める。
 - ・ 地域・外部連携事業、ボランティア活動、公募展等へ積極的に参加させ、生徒には発表の喜びや社会貢献の大切さを体感させる。また、地域をはじめとして大阪や全国にも本校の存在感を示していく。
 - ・ 府立高校で唯一の美術造形専門高校にふさわしい教育活動を展開するため、施設設備及び教材教具等の適切な改善と充実、海外研修旅行の実施に取り組む。
- ※ 本校で開催する小・中学校教員を対象とする研修会やワークショップへの参加者数は、100名以上の水準を維持・発展させる。
- ※ 海外研修旅行を実施し、参加者による報告・発表活動を積極的に開催する。

【学校教育自己診断の結果と分析・学校協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析 [平成26年12月実施分]	学校協議会からの意見
<p>【全般】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 全20項目中H25年度を上回ったのは、生徒4項目、保護者11項目。その他の項目も昨年度並みとなり、一定の評価は受けていると思われる。 <p>【学習指導等】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 授業に関する生徒・保護者の肯定的回答は昨年並みだが、生徒の「教え方の工夫」に対する肯定的回答は86%になり3%向上した。 <p>【学校運営】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 防災訓練を年2回実施したが、雨天の関係もあり生徒の肯定的回答は75%。しかし、安全面の広報を充実させたために保護者は8%向上して73%になった。 ・ 学校行事への保護者参加は2%増の73%。文書・事務連絡等が適切だという保護者回答も3%増の85%になり、一定の評価がなされている。 <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 国際理解に関する項目の肯定的回答は生徒44%・保護者49%で昨年より若干低くなった。台湾やタイの学校訪問があり交流会も実施し、国際的な交流機会は増加したが、国際理解という観点による評価は低下した。 ・ 地域連携についても29%の肯定的回答で僅か2%増であった。地域清掃を新規に実施し、防災訓練にも地域住民の参加を初めて実施するなど、連携の機会は大幅に増えたが、生徒の意識改善にはつながらなかった。 	<p>第1回(6月3日)</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 平成26年度学校経営計画及び平成25年度学校評価について <ul style="list-style-type: none"> ・ 地域との関わり方において、地域清掃などボランティアの機会を増やしており、防災訓練においても地域住民参加型にするなど取組みはかなり改善された。しかし、ボランティア機会を増やしても生徒や保護者の意識改善への効果は希薄だと思う。地域デザインを生徒に考えさせるような機会を増やす方が効果につながるのではないか。 <p>第2回(9月25日)</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 学校経営計画進捗状況及び創立30周年記念事業について <ul style="list-style-type: none"> ・ 計画とおりに進捗していると思う。生徒がもっと学校のHPを見るようにするために、生徒の声をもっと掲載してはどうか。 ・ 生徒の国際理解を高めるためにも海外修学旅行を検討する時期が来ていると思う。 ・ 30周年で視聴覚室や食堂を整備したのは好判断だと思う。また、記念展や卒業生による対談会なども生徒にとって良い刺激になるだろう。 <p>第3回(2月3日)</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 平成26年度学校評価及び平成27年度学校経営計画について <ul style="list-style-type: none"> ・ 国語力をはじめ基礎学力がよく伸びた。授業アンケートからそれぞれの教員が努力している様子が窺え、進学実績の伸びにもつながっているのではないかと。 ・ 創立30周年記念事業の盛り上がりを見て卒業生の母校愛の高さを感じた。大学卒業者の就職率も良くないが、何かをやり遂げたいという力を身につけていれば、何とか社会と関わりながら生きていく力になると思う。ぜひ、そういう指導を心掛けて欲しい。 ・ 大学進学希望者の多くが奨学金ローンを抱えながら進学している。大学卒業後の負担を考えていない生徒も多いと思われるので、将来設計についてしっかり考えさせる機会をさらに設けて欲しい。

3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標	自己評価
1 創造的 活動の 源泉と なる基 礎学力 と言語 表現力 の育成	(1) 基礎学力・言語表現力の育成 ア 学力診断テスト活用 イ 読書活動の充実 ウ 言語表現力の育成 エ 幅広い教養の涵養	ア 学力診断テストを年2回実施し、自己の学力の相対的な状況を認識させ、造形科目の向上に基礎学力の向上が不可欠であることに気づかせる。 イ 調べ学習を積極的に採り入れ、創作活動に読書や作品鑑賞が重要であることを認識させるため、授業において図書館利用や ICT 機器の活用を促進する。 ウ 合評やプレゼンテーションによる授業時数を確保し、自らの美意識や制作意図などを伝えることを目的として言語表現力を向上させる。 エ 日本の伝統文化・伝統工芸、世界の美的文化遺産に対する興味を喚起する。	ア・学力診断テスト結果 第1回(5月)と第2回(9月)の学習到達ゾーンの比較を活用する。 (上位ゾーン10%向上) イ・授業における図書館利用や ICT 機器の利用数を向上させる。 (利用授業数5%向上) ウ・学力診断テストで国語力を測定する。 (下位ゾーン10%減少) エ・外部活用講座実施回数 (H25年度6回)	ア・学力診断テストによる測定結果 上位ゾーン：44%の生徒が向上した。 1年生は 20名 ⇒43名 2年生は 68名 ⇒84名 基礎学力は着実に向上した。(◎) イ・授業における図書館利用や ICT 機器の利用利用率は全体で20%向上 再整備した視聴覚室の利用は約3倍増。 各教科において着実に増えた。(○) ウ・重視している国語力の測定結果は以下のとおり 下位ゾーン：45%の生徒が減少 1年生は 20名 ⇒7名 2年生は 46名 ⇒29名 言語表現力向上が成果として表れた。(◎) エ・外部活用講座実施回数 日本工芸協会やイラスト・漫画のアーティストによる講座を7回実施した。(○)
2 将来 展望を 持つて る進路 指導の 実現	(1) 将来の職業につなげる志や力を身につける ア 高一大・専連携講座や外部団体による講演の充実 イ 進学希望者講習の充実 ウ 大学入学後の状況調査を実施し、高校から大学、社会へのつながりの情報提供に努める エ 希望する進路実現に関する測定を行う	ア 大学や専門学校から講師を招いて実施する講演会のテーマは、「美術造形の学びを将来の職業に生かす」に設定して依頼する。 イ 国公立大学・難関私立大学進学希望者対象の講習を組織的に実施し、年間をとおして受講者の定着を図る。 ウ 卒業後2年後のアンケート調査に加え、社会で活躍する卒業生に関する情報を幅広く提供できるように努める。 エ 卒業時に自分の進路目標を達成できたのかを調査し、生徒の進路満足度の向上につなげる。	ア・開催講座参加者数 (H25年度250名) ・卒業生との交流の場を設定 (H25年度2回) イ・国、社、理、英の通年受講者数 (15名以上) ウ・アンケート回収率 (60%以上) ・美術関係で活躍する卒業生による講演会実施 (H26年度新規) エ・希望進路達成率 (H26新規 75%以上)	ア・大学や専門学校の講師による講座は生徒の期待に十分応えるもので、471名が参加した。(◎) ・創立30周年記念として、卒業生による展覧会とキャリア教育に関する対談会等を実施した。 実施回数3回。(○) イ・通年で受講した生徒は20名。 国公立大学にも8名合格。(◎) ウ・アンケート回収率 25.4% (△) ・30周年記念対談会として実施 卒業生への質疑が非常に活発(20名以上)であり、内容に関する評価も高かった。また、現役大学生による講演会も実施 (◎) エ・希望進路達成率 93.8% 進路指導ガイダンスや説明会、講習会を経て選択した進路希望を達成したという回答は、予想をはるかに上回る結果であった。(◎)
3 美術 造形 教育 センタ ー校と しての 役割	(1) 府立唯一の美術専門学科設置校としての役割を担う ア 小中学教員対象実技研修会を実施 イ 校外展への参加奨励 ウ 校舎施設設備の充実	ア 小・中学校教員対象実技研修会を大学等と連携して行う。 イ 高校展、芸文祭等の高校生向け公募展をはじめ、大学・専門学校や企業など外部団体が主催するコンクールに積極的に出品させることを、作品制作への意欲喚起に資するとともに質の向上につなげていく。 ウ 空調設備はもとより、専門機器の維持管理に努め、更新と充実に努める。また、海外研修旅行の実施と参加者発表会の充実に努める。	ア・参加者数の維持、向上 (H25年度145名) イ・出品者数等の維持、向上 高校展(H25年度248名) 芸文祭(H25年度201名) ウ・更新計画策定の進捗を確認し、要望を実現する ・海外研修旅行を実施 参加者報告会を開催 (研修旅行参加者25名) (報告会参加者75名以上)	ア・日程が中学校の行事と重なったため、中学からの参加者数が減少し、116名であった。(△) イ・高校展出品者数は331名。 芸文祭出品者数は220名。 受賞者も昨年度より増加。(○) ウ・空調は府の整備計画により新たに3室に設置。 また、30周年記念事業として視聴覚室にも空調を設置し、大型TVなど視聴覚機器も導入したので視聴覚室の利用が飛躍的に増加。さらに食堂には造形高校としてふさわしい展示スペースを設置するなどのリニューアルをした結果、利用者が増加した。(◎) ・海外研修旅行を計画どおり25名で実施。 6日間で7つの美術館や宮殿や教会などで美術品を鑑賞し、提携校との交流会も実施。 報告会への参加者は82名であった。(○)